

2013年3月期 第3四半期 (2012年4月～12月) 東京エレクトロン 決算説明会

内容:

- 第3四半期連結決算の概要
- 2013年3月期業績予想修正と
収益向上に向けた施策

取締役執行役員 原田 芳輝

代表取締役社長 竹中 博司

2013年2月5日

第3四半期 連結決算の概要

取締役執行役員 原田 芳輝

2013年2月5日

損益状況

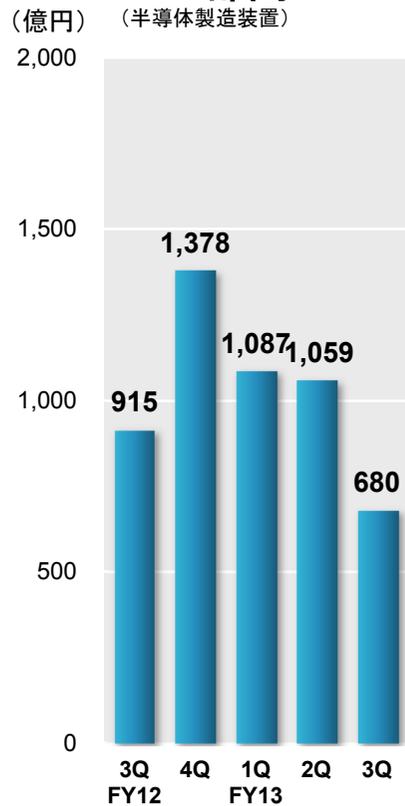
(億円)

	2013年3月期			1Q-3Q		
	1Q	2Q	3Q	FY13	FY12	前年同期比
売上高	1,341	1,324	919	3,585	4,555	-21.3%
SPE	1,087	1,059	680	2,827	3,399	-16.8%
FPD/PVE	47	44	46	139	533	-73.9%
EC/CN	206	218	191	615	619	-0.5%
その他	1	1	0	3	3	-1.6%
売上総利益	441 (32.9%)	415 (31.4%)	282 (30.7%)	1,138 (31.8%)	1,549 (34.0%)	-26.5%
販管費	348	386	351	1,085	1,120	-3.1%
営業利益	92 (6.9%)	29 (2.2%)	-68 (-7.5%)	53 (1.5%)	429 (9.4%)	-87.6%
税前利益	112	43	-61	93	459	-79.7%
当期純利益	57	3	-70	-9	274	-
1株当たり 当期純利益(円)	31.93	2.07	-39.22	-5.23	153.06	-
研究開発費	179	194	174	548	598	-8.4%

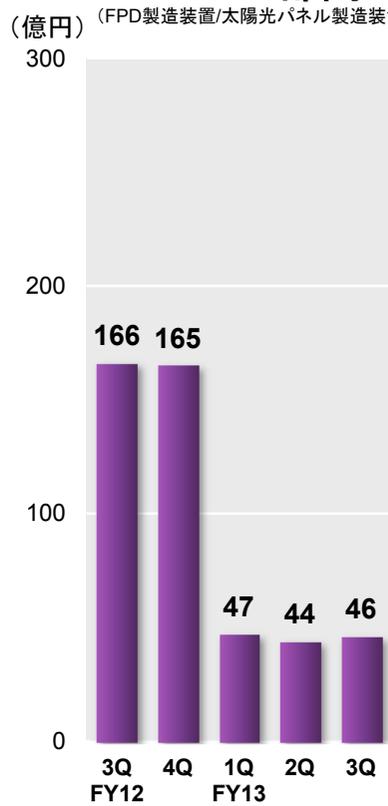
1. SPE:半導体製造装置, FPD/PVE:FPD製造装置/太陽光パネル製造装置, EC/CN:電子部品/情報通信機器
2. ()内は利益率
3. 利益率は、1円単位の金額をもとに計算しています。

部門別売上高

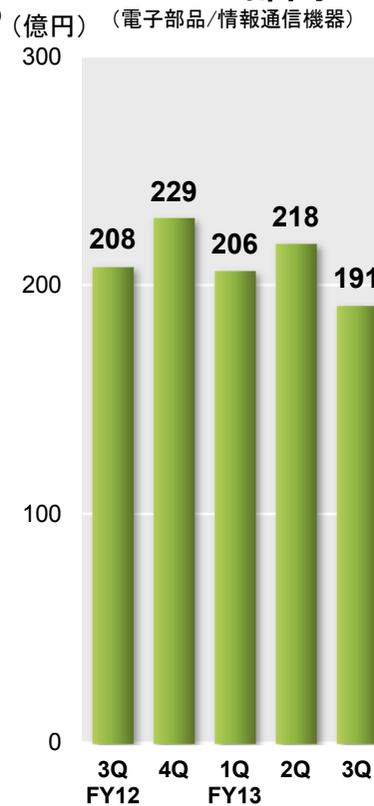
SPE部門
(半導体製造装置)



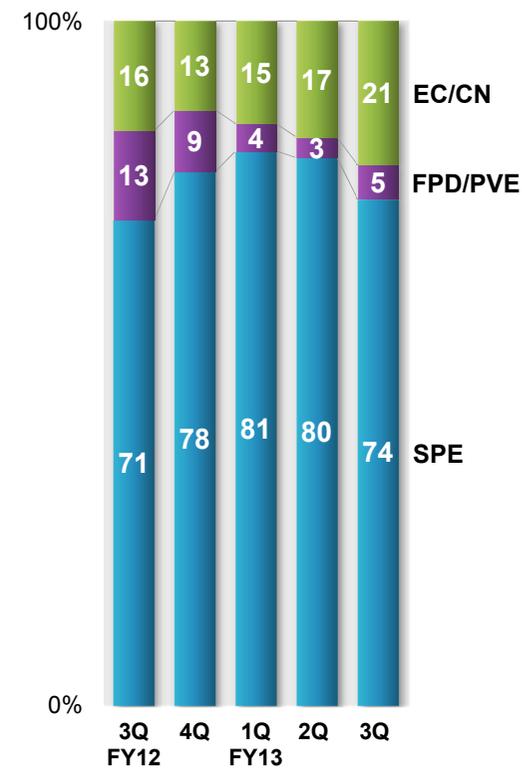
FPD/PVE部門
(FPD製造装置/太陽光/パネル製造装置)



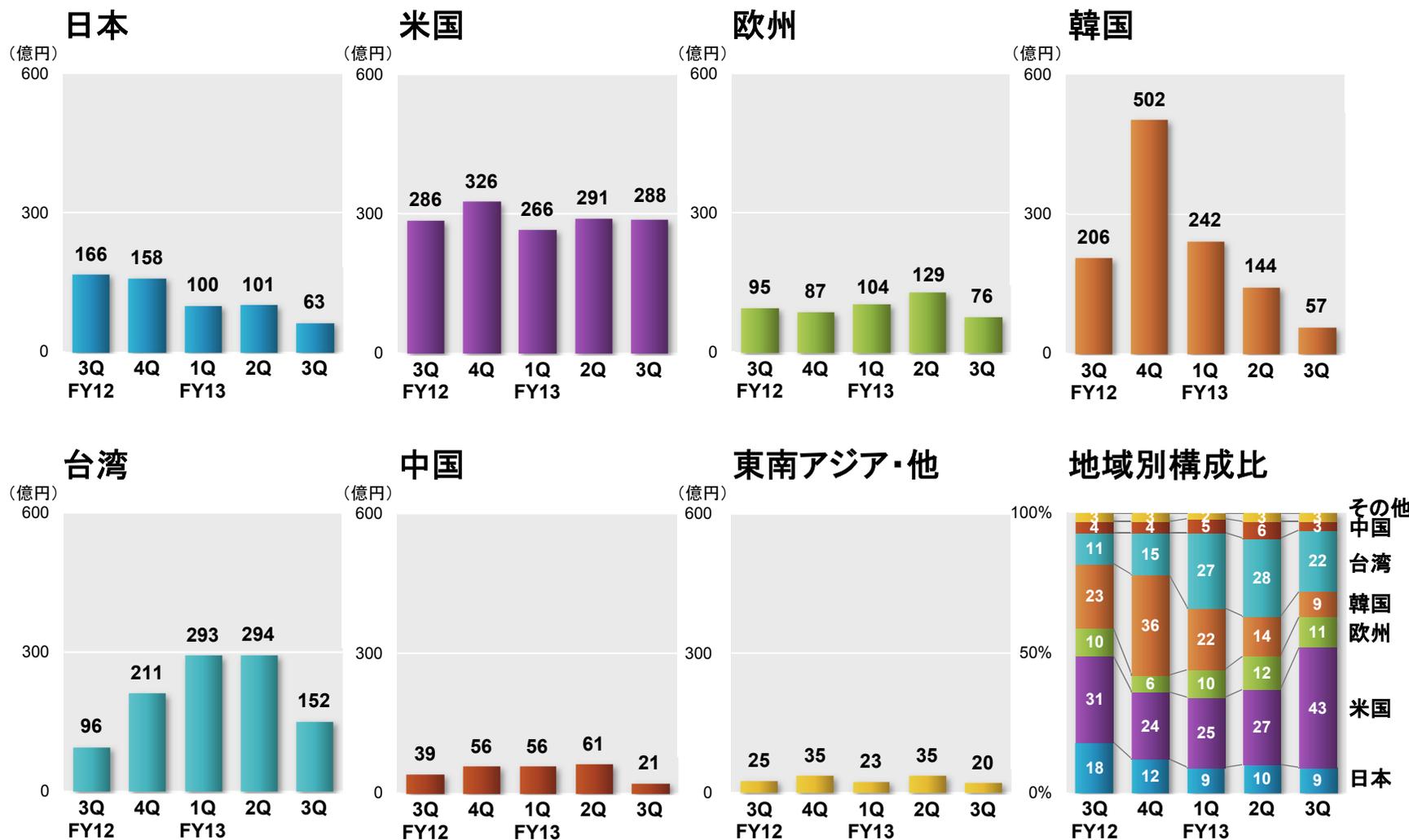
EC/CN部門
(電子部品/情報通信機器)



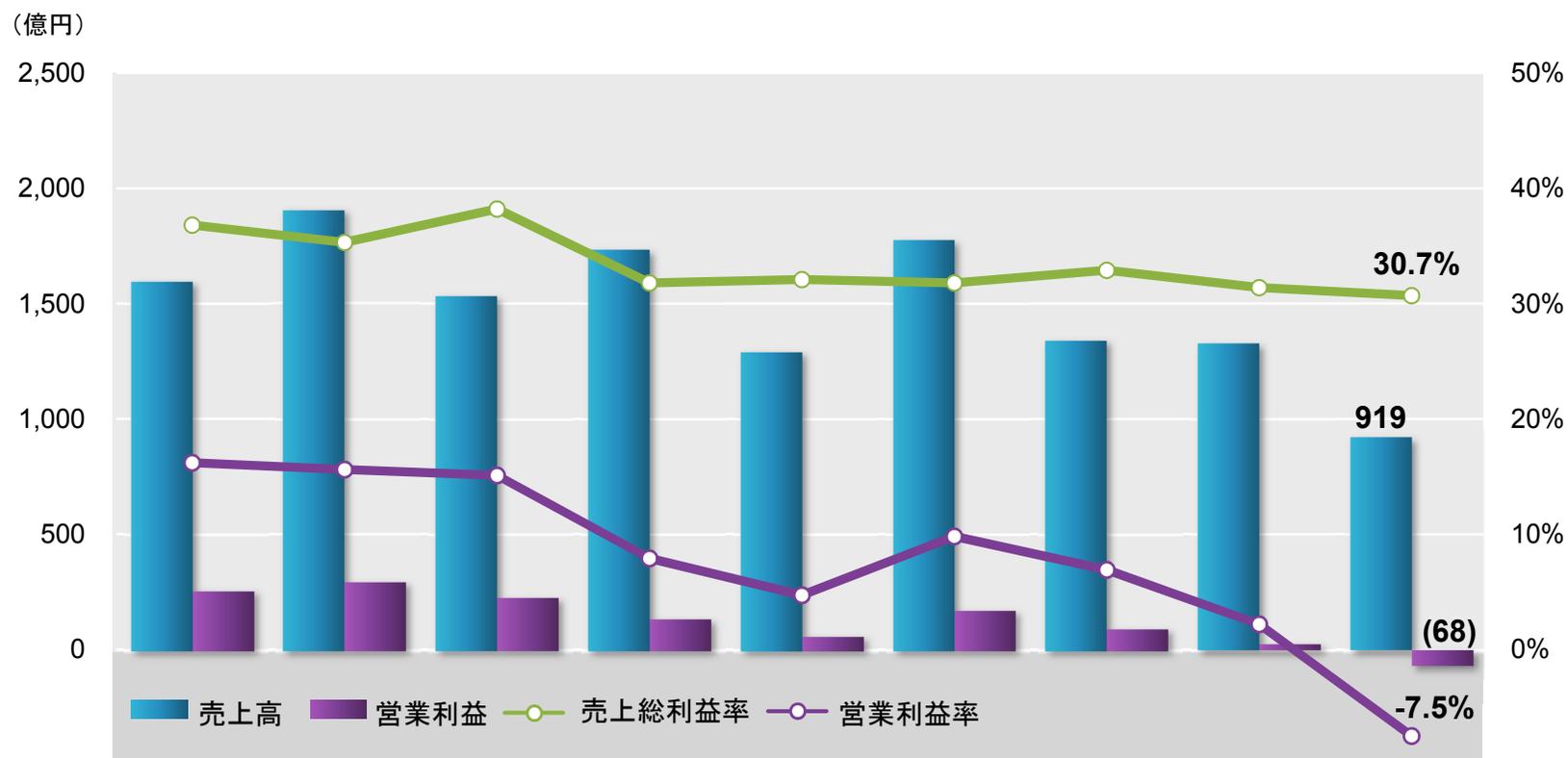
部門別構成比



SPE部門地域別売上高

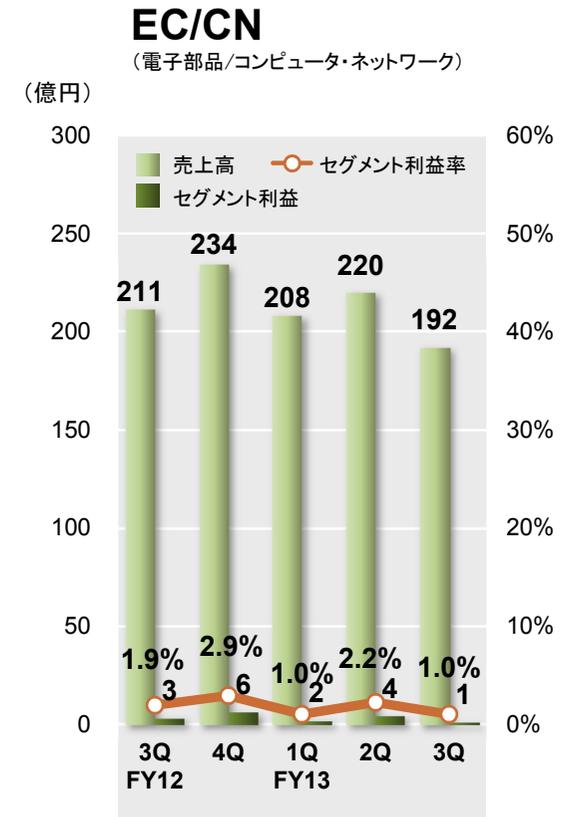
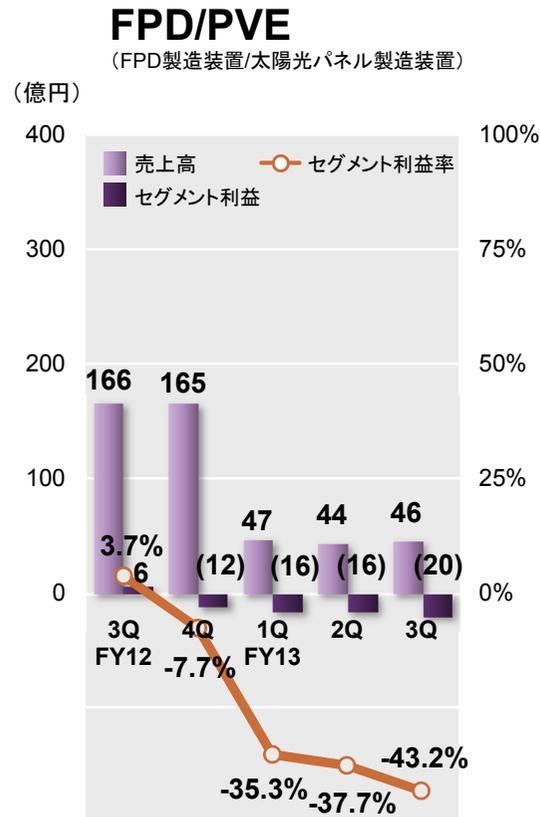


売上高・営業利益・利益率推移



	FY11/3Q	4Q	FY12/1Q	2Q	3Q	4Q	FY13/1Q	2Q	3Q
売上高	1,596	1,906	1,531	1,732	1,291	1,775	1,341	1,324	919
営業利益	258	297	230	137	60	174	92	29	-68
売上総利益率	36.8%	35.3%	38.2%	31.8%	32.1%	31.8%	32.9%	31.4%	30.7%
営業利益率	16.2%	15.6%	15.1%	7.9%	4.7%	9.8%	6.9%	2.2%	-7.5%

セグメント情報



1. 上記報告セグメントには、基礎研究又は要素研究等の研究開発費が含まれておりません。
2. セグメント利益は、税前利益です。
3. 利益率は、1円単位の金額をもとに計算しています。

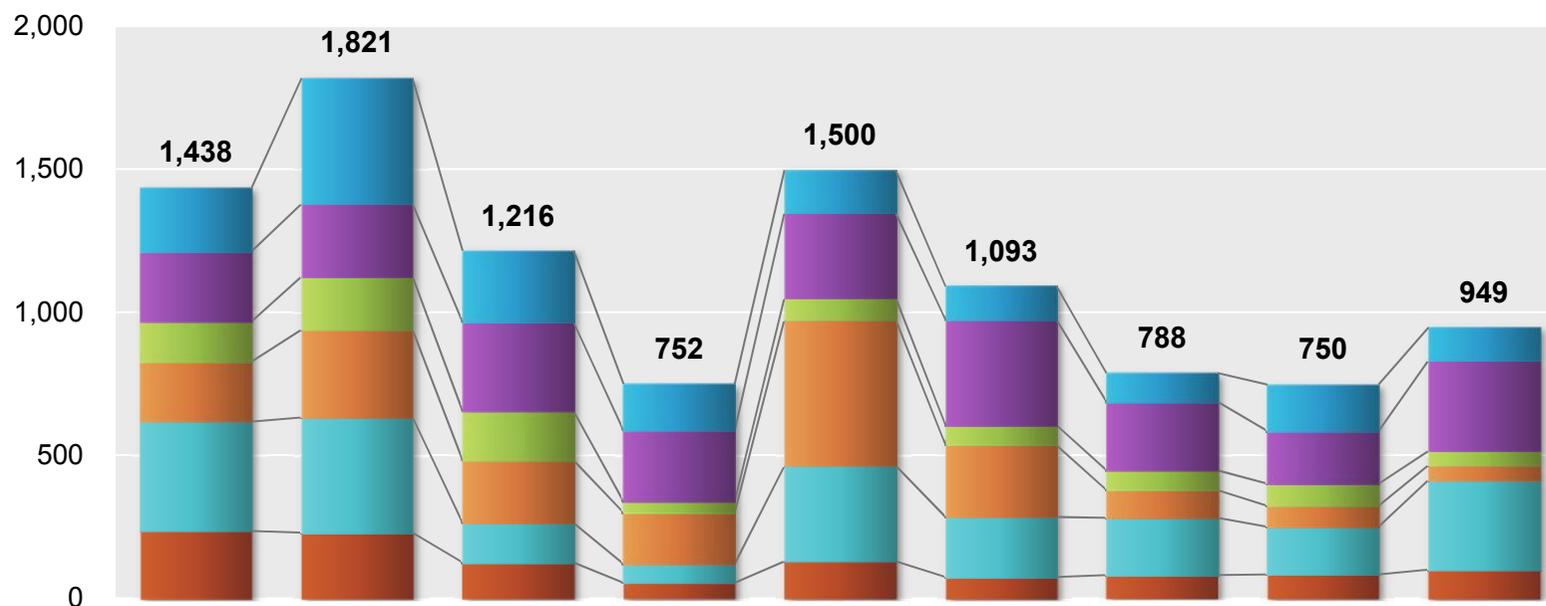
受注額・受注残高



■ 半導体製造装置受注額	1,286	1,558	1,126	735	1,449	1,064	760	669	913
■ FPD/PV製造装置受注額	152	263	89	17	50	28	28	80	36
○ 半導体製造装置受注残高	2,288	2,289	2,207	1,667	2,201	1,886	1,577	1,187	1,426
○ FPD/PV製造装置受注残高	510	654	618	394	278	142	122	158	232

地域別受注額：SPE, FPD/PVE

(億円)

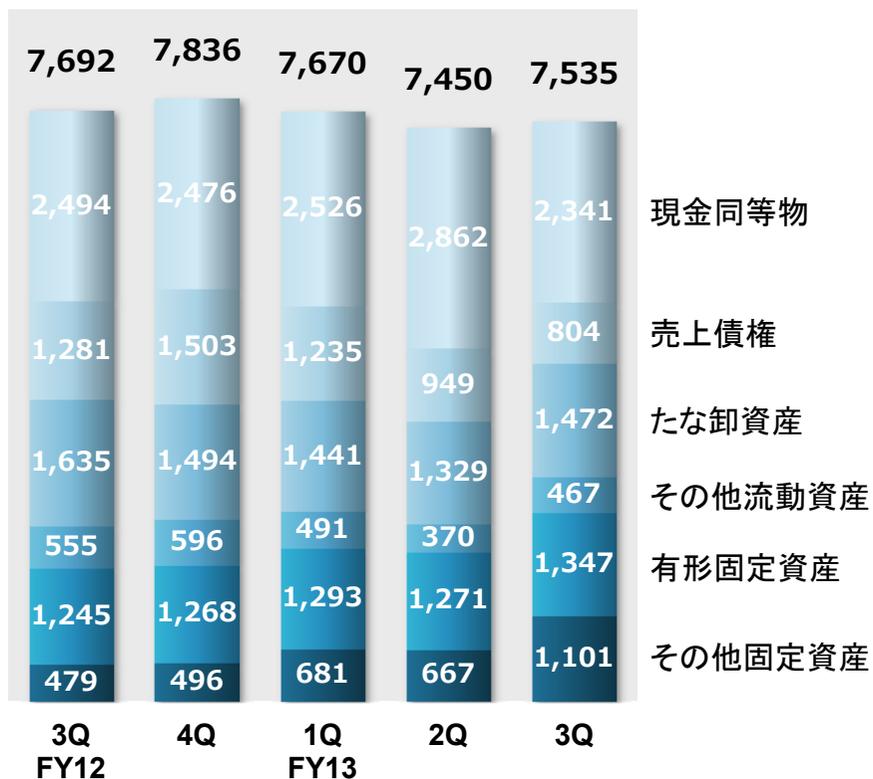


	FY11/3Q	4Q	FY12/1Q	2Q	3Q	4Q	FY13/1Q	2Q	3Q
国内	222	439	250	163	149	117	100	163	115
米国	245	254	311	248	297	368	240	184	317
欧州	141	186	172	39	76	70	68	77	50
韓国	210	307	219	179	511	251	97	73	52
台湾	382	403	137	66	335	210	200	167	313
中国・東南ア他	235	229	125	54	129	74	81	83	100

貸借対照表

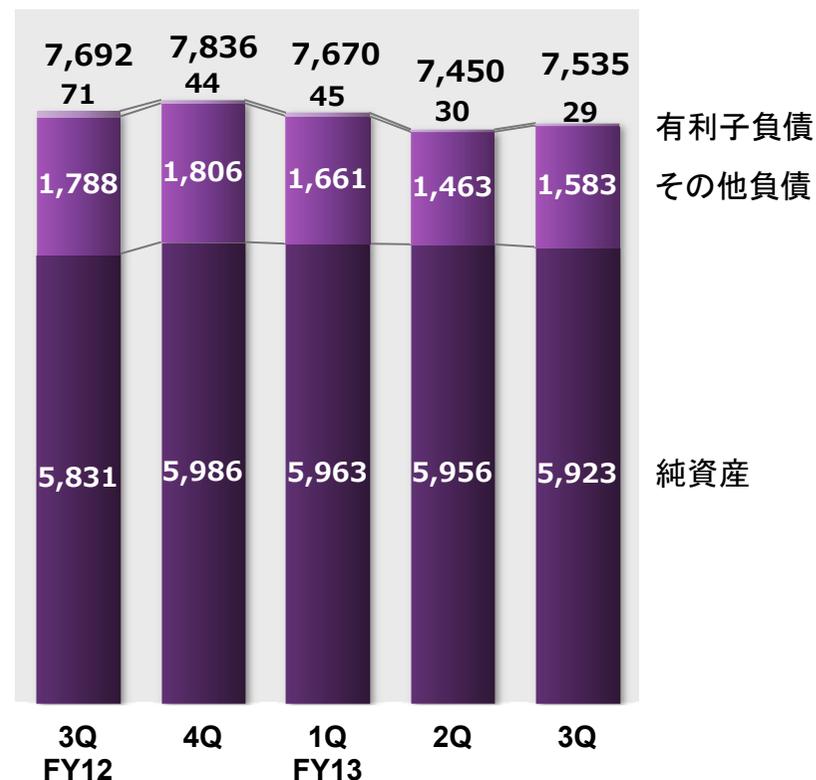
資産

(億円)



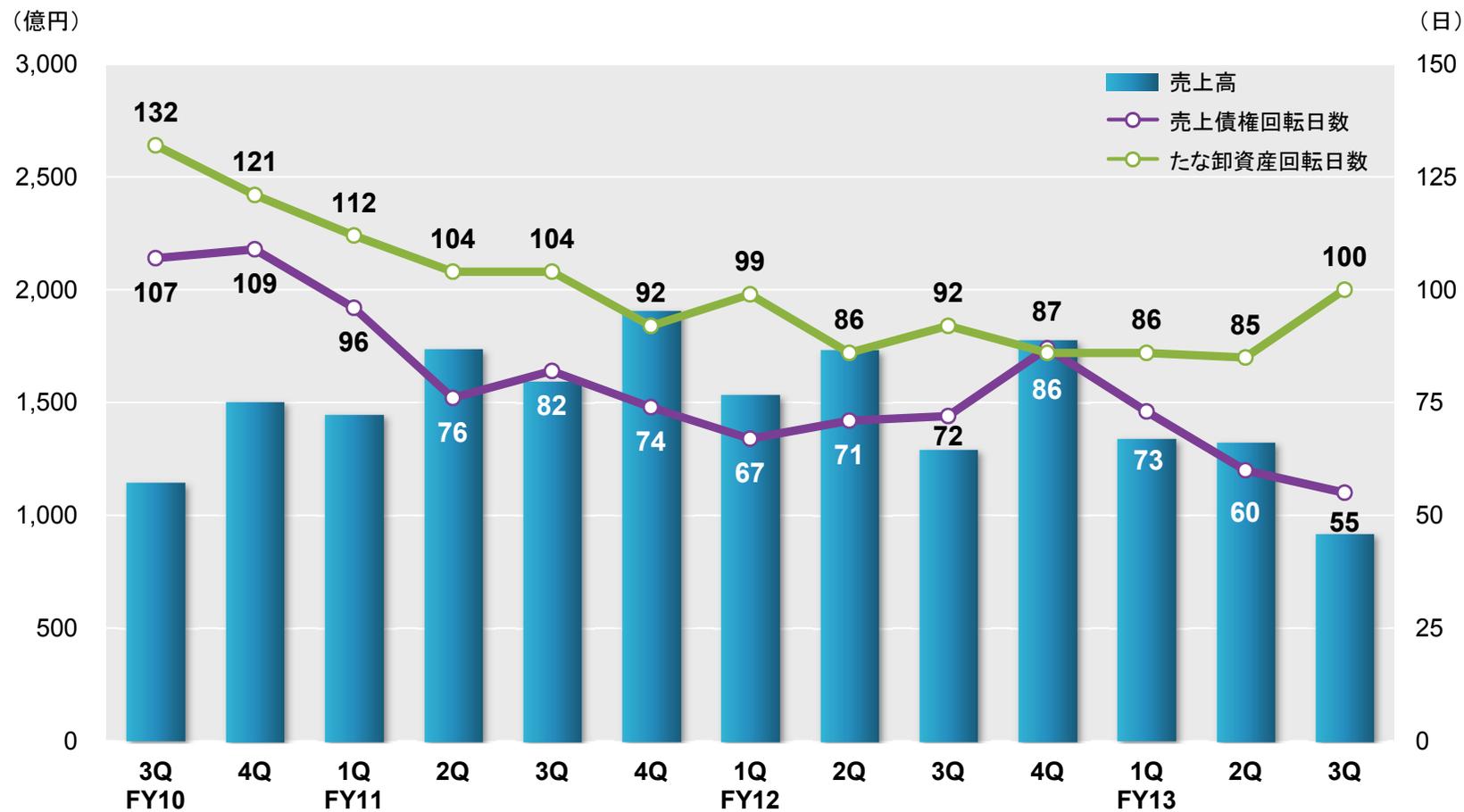
負債・純資産

(億円)



- 3QFY13の「その他固定資産」1,101億円には、企業買収等に伴うのれん541億円(暫定)が含まれています。
また、「その他固定資産」が4QFY12から605億円増加していますが、主に当のれんの増加541億円によるものです。
- 現金同等物: 現預金+短期投資等(貸借対照表上の表示は「有価証券」)

たな卸資産・売上債権の回転日数



回転日数 = 売上債権もしくはたな卸資産 ÷ 各四半期末までの12ヶ月間売上高 × 365

キャッシュ・フロー

(億円)

	2012年3月期		2013年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業キャッシュ・フロー	-49	79	358	380	-22
投資キャッシュ・フロー	533	108	-460	-381	-661
企業買収に伴う 株式取得等による支出*	-	-	-158	-	-392
設備投資他	-141	-81	-92	-34	-26
3か月超の預金等の増減額	674	190	-210	-347	-242
財務キャッシュ・フロー	-77	-28	-48	-15	-49
現金及び現金同等物の 期末残高	1,414	1,587	1,428	1,416	653
現金及び現金同等物＋ 3か月超の定期預金及び 短期投資等の期末残高	2,494	2,476	2,526	2,862	2,341

* 企業買収に伴う支出

NEXX Systems 158億円、FSI International 159億円、Magnetic Solutions 19億円、Oerlikon Solar 213億円

2013年3月期業績予想修正と収益向上に向けた施策

代表取締役社長 竹中 博司

2013年2月5日

市場環境

事業環境 2013年2月初旬時点での見方

▶ 半導体設備投資

PCの需要が弱く、メモリ向け投資は依然低調。ロジック向け投資も減少傾向で、現時点ではCY2013の半導体設備投資は前年比マイナス10%程度を予想。ただし、年後半はSSD需要の増大に伴うNANDおよび一部モバイルDRAM向け設備投資の増加を期待。

▶ FPD設備投資

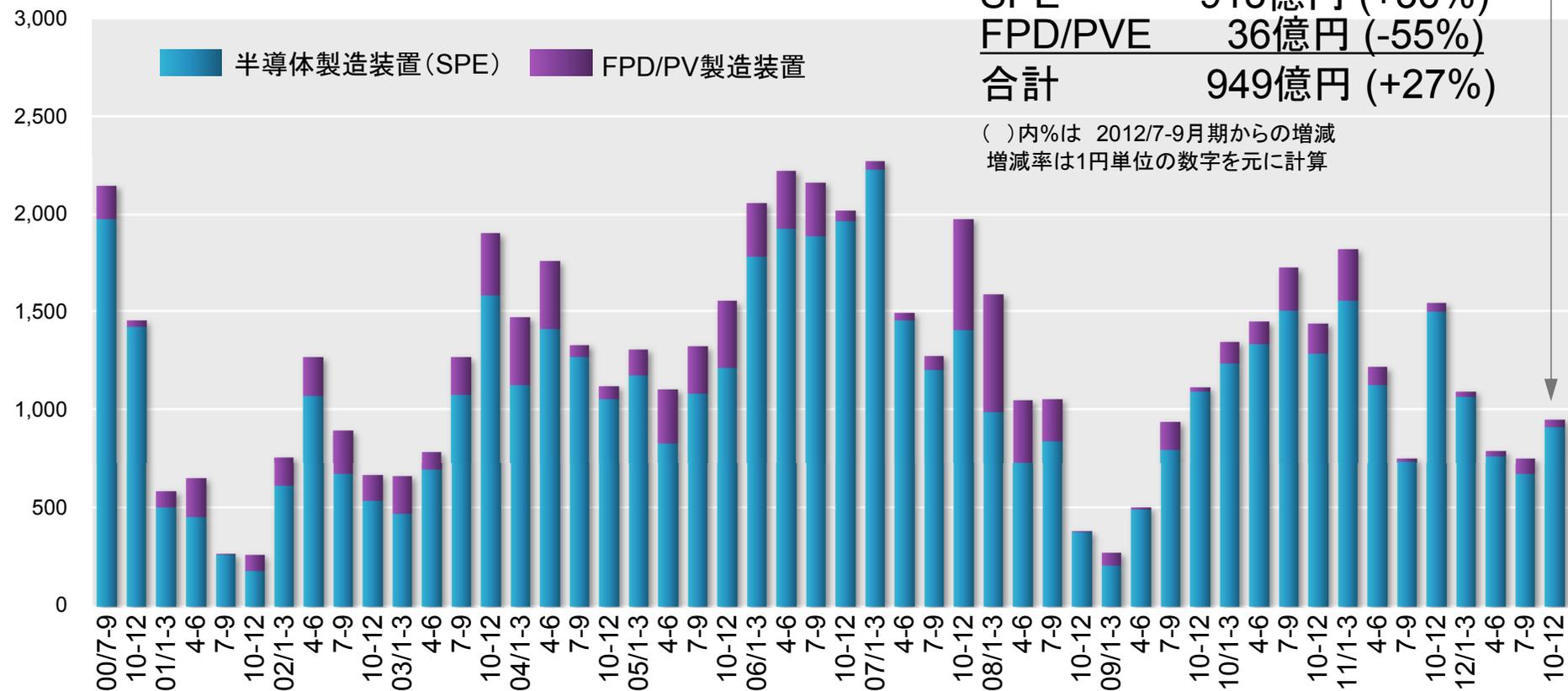
CY2013の大型液晶パネル用製造装置の需要は、中国での新規投資による改善が見られるものの全般的に弱い。中小型パネル向け投資は継続。有機ELテレビ市場の立ち上がりは2016年以降であり、設備投資の本格化は2015年の見込み。

▶ PV設備投資

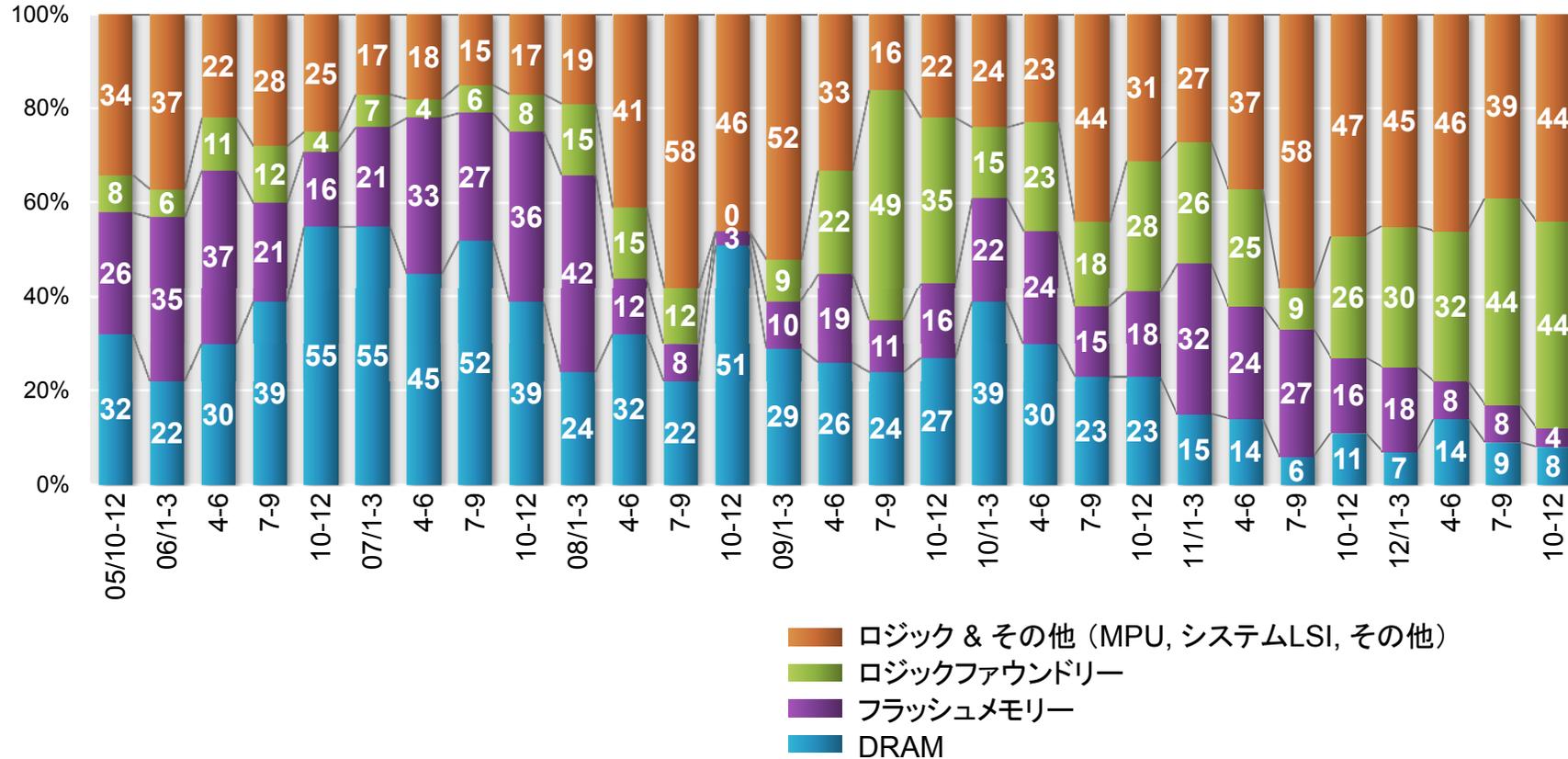
太陽光パネル市場は継続して成長しており、EU市場が減速する一方、2013年以降は中国ならびにサンベルト地域での発電需要が増大すると予想され、薄膜シリコン・パネル向け投資が期待される。

四半期 受注額

(億円)



四半期 アプリケーション別SPE受注



グラフは装置本体受注における構成比を示しています。

2013年3月期業績予想修正



TOKYO ELECTRON

CORP IR/February 5, 2013



2013年3月期 業績予想修正

(億円)

	FY2012	FY2013					
		上期	下期		通期		通期 対前年 増減
		実績	新予想	修正額	新予想	修正額	
売上高	6,330	2,666	2,284	-60	4,950	-60	-22%
SPE	4,778	2,146	1,783	-	3,930	-	-18%
FPD/PVE	698	92	97	-	190	-	-73%
EC/CN	848	424	400	-60	825	-60	-3%
その他	4	2	2	-	5	-	-
営業利益	604	122	-27	-30	95	-30	-509
下段: 営業利益率	9.5%	4.6%	-1.2%		1.9%		
税前利益	606	155	-5	-30	150	-30	-456
当期純利益	367	60	-15	-25	45	-25	-322

1. SPE: 半導体製造装置 FPD/PVE: フラットパネルディスプレイ及び太陽光パネル製造装置 EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク
2. 修正額: 10/31に発表した業績予想からの修正額

<下方修正の主な理由>

工場操業度が前回想定より低下し、原価に対する固定費負担率が上昇

業績予想修正に関連して

1. 固定費削減

➤ 前期比160億円*削減

*当期中に買収完了したNEXX Systems, FSI Internationalの固定費およびのれんも含めた上での削減幅

2. 配当予想

➤ 記念配当含めた年間配当51円を予定(据え置き)

収益向上に向けた課題/対策

▶ SPE事業

- ▶ 製品競争力の強化（エッチャー・洗浄装置）
進捗状況：顧客の寡占化にもかかわらず、シェアと採算性を確保

▶ FPD事業

- ▶ LCD
 - 市場規模に即した適正なオペレーションにシフト
 - 収益性を重視した事業展開
 - 中国昆山での製造開始
- ▶ 有機EL
 - 有機ELテレビ市場の立ち上がり時期を見極めて対応
 - 開発投資規模の適正化

▶ PV事業

- ▶ グリッドパリティを超えるモジュールコスト\$0.4/Wp以下の早期実現
- ▶ 今後エネルギー需要の急増が見込め、かつ、薄膜シリコンの優位性が大きく発揮できるサンベルト地域でのプロモーション

サマリー

1. PCは需要低迷、スマートフォン市場も想定ほど伸びず、半導体設備投資の回復が遅延
2. 市場調整は年央まで続くとして、収益改善に注力
3. 年後半はメモリ投資の復活を含め、半導体市場全般の市場回復を期待し、戦略製品のシェア向上を図る

▶ 将来見通しについて

本資料に記述されている当社の業績予想、将来予測などは、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、経済情勢、半導体/FPD/PV市況、販売競争の激化、急速な技術革新への当社の対応力、安全・品質管理、知的財産権に関するリスクなど、様々な外部要因・内部要因の変化により、実際の業績、成果はこれら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

▶ 数字の処理について

記載された金額は単位未満を切り捨て処理、比率は1円単位の金額で計算した結果を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

▶ 為替リスクについて

当社の主力製品である半導体製造装置及びFPD/PV製造装置の輸出売上は、原則円建てで行われます。一部にドル建ての決済もありますが、受注時に個別に先物為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしています。従って、収益への為替レート変動による影響は極めて軽微です。

FPD/PV:フラットパネルディスプレイ及び太陽電池

